画家の愛した自然
～絵画で見る湯河原の風景～

湯河原は万葉集にも詠まれたしっとりと美しい温泉地。都市の喧騒から離れた閑静なこの地には、多くの文化人たちが静養に訪れ、創作の場としました。

京都画壇の巨匠・竹内栖鳳や昭和期の洋画界を牽引した安井曾太郎は、保養のため湯河原を訪れるうち、画室を設けて住まいを移し、制作活動をするようになりました。

新居の庭で制作する安井曾太郎

また、水彩画専門の画家として一時代を築き、後半生を真鶴で過ごした三宅克己や、第二次水彩画ブームの担い手の一人として活躍した吉浜出身の画家・富田通雄も、湯河原の自然を愛し多くの風景画を描いています。

昭和の終わりごろには、村山徑をはじめ、立石春美、加藤晨明、髙木義夫などの日展系の画家たちが、吉浜や福浦の相模灘を見下ろす高台に画室を構え、そこから見た景色を作品に残しています。

町立湯河原美術館は、こうした湯河原にゆかりのある作家の作品を収蔵しています。現在、企画展示室では、湯河原を中心にした風景画の展覧会を開催しています。

「赤き橋の見える風景」昭和29年　安井曾太郎

昭和24年、安井は竹内栖鳳が居住した画室兼住居に移り住みました。

緑に囲まれた夏の湯河原が力強いタッチで描かれている作品です。安井は、5年後に近くの山頂に新しく画室を建て転居しましたが、その年の暮れ、屋外での無理な制作がもとで肺炎にかかり亡くなりました。

新居の庭から見える城山を「セザンヌのサント・ヴィクトワール山に一寸似ている。仲々いい山である。」と語っています。

「湯河原の秋」昭和34年　富田通雄

代々続く医師の家系に生まれた富田は、三男のため若くして上京しました。銀行に勤務する傍ら独学で水彩画を学び、日本水彩画研究所入所を機に本格的に絵を描くようになります。

イギリスの伝統的な透明水彩画法により、紙の白地を生かした明るい色調で、生まれ育った湯河原の秋を描いています。

収蔵品小企画展
「画家の愛した風景―湯河原を中心に」
12月23日（水・祝）まで
平松礼二館企画展
「日本の情景―雨・風・雪・月」同時開催中
12月23日（水・祝）まで

ギャラリートーク　12月20日（日）10:30～11:00

【開　館】9:00～16:30（入館は16:00まで）
【休館日】２・９・16・24～31日
【アクセス】湯河原駅から奥湯河原または不動滝行きバス12分「美術館前」下車
【観覧料】常設館・平松礼二館共通
大人600円、小人300円
（町民は大人400円、小人200円）
※毎月第３日曜日は家庭の日のため、町民の方は観覧料無料です。（受付で町民証を提示してください。）

【問合せ】町立湯河原美術館　☎63-7788